

くなると表面の寒冷な水の方が軽く、従つて水が上下に交換することがない。只表面の水だけが冷却して遂に零度になり氷に變化する。更に寒いと段々氷が厚くなり信州諏訪湖などでは氷の厚さ一二尺にもなる。しかし内は攝氏の四度位、それで魚類は湖底に沈んで冬を越す。尤も寒帯地方では湖水が全部凍結して魚類が全部凍死し絶滅するこ

一月の園藝

ともある。天然の現象は吾人の利益とか不利益とかを考へて起るものでなく、起るべき原因があれば必ず起る。野も山も一面の雪景色貴賤貧富を問はず美化すると共に寒威は富貴に強く貧賤に弱しといふではない。之れをして自然の公平といふべきでせう。只人類は自然の現象を旨く利用するが肝心である。

庭木の手入れ

家があれば庭があり、庭があれば多少の庭木がある、庭木の色よく榮えて居るのは見て心地のよいものであるが、とかくこの庭木のお話が等閑にふせられ、虐待されて居ることは一般の事實であ

東京女子高等
師範學校教授

有川ひさる

るやうに思はれる。殊に塵埃の多い、風通しの悪い都會の庭木は、一層慘めなものである。庭木一本からでもやりやうによつては、いろいろ栽培上の經驗もえられるし又世話することによりて多くの樂みも求められるものである。扱て此頃の手入れとしては寒肥を與ふること、病害蟲を防除する

こと等は主なる仕事である。

寒 肥

別に代價を拂つて求めずとも手近に生産する下肥で澤山である(人糞尿)、これと水とを半々位に稀めて七八年の、大方一人前の木ならば五六升をやればよい(荷桶一荷は三斗入り)幹から小一尺も離れて輪狀に溝を掘りこゝに一面に注ぎ、再び掘た土を元のやうにかけて置くのである。溝を掘るに別段やかましい方法もない、子供にめいゝく鍬でも、シヨベルでも持たせ、一本に何人でもたかつて土をあげさせさへすればよいのである。さうして下肥ならば幼児には手にあまるかも知れぬが幸ひ兎とか鶏とかを飼つてあるならば、それ等の糞はまことに結構である、バケツでなり、ゴミトリでなり思ひゝに運搬して溝に入れさせればよい。庭木のとかく充分に育たぬといふのはこれ迄多く植木屋任せにせられた爲に、腹一杯の食を得られなかつたに多分の原因がある、真心のある素

人から充分の食事を與へられた方がいくら植物は幸するか知れない。

病虫害防除

庭に下りて見るならば、庭木にでも盆栽にでも貝殻虫や煤病の少しも着いてゐないといふのは殆んどあるまい、ことに此頃は木の葉が大抵散つてしまつて居るから見つけることがらくである、小供に一本一鉢を預けるならば、大人より早く見出すであらう、貝殻虫を殺したり、同時に植物の種の病氣の豫防になつたりする最近有名な藥劑は石灰硫黄合劑といふ藥である、これは酸曹液といつて藥種屋に販賣して居る。竹筥で貝殻虫を擦り落したあとへこれを塗つて置くので、又病氣豫防の爲めには如露でも木の膚の一面にふりかけて置けばよい。煤病とは木の膚や葉の面に黒い粉狀のものが、煤のやうに着いて居るので、このまゝ置くとやはり木を傷める、これは石鹼を溶いて筆で洗つてやる方がよい。此他木の面がたゞれたや

うになつたり、異様にふくらんだりしてゐるのは害虫が卵を産みつけたり、病氣にかゝつたりして居るのであるから、見附け次第削りとつて前の薬を塗つて置くべきである。序に土中に隠れて居る種々の害虫の幼虫やら蛹やらは見つけ次第駆除すべきで、害虫の等閑ならぬ事等は幼い時代から注意させて置きたい。

温室の代用になる

諸種の設備

温室といつては、大げさにきこえるが、こんなものでなくても、大方其用をなさせるには、考へやうによりていろいろ工夫する事が出来る。

(一) フレームといつてもおつくうであるが、大さはどうでもよい。一尺も深く土を掘つてこれに有りあはせの硝子戸の蓋にさへすればよいのである。但し場所はよく考へて建物の南側のやうに陽あたりよく、冷い北風が防げる處でなくて

はならぬ。

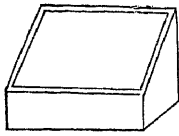
(二) 南面した廊下とか、椽の下などは、南側に硝子戸をたてるか、又極く簡単に夜中だけ菰か蓆を二三枚かけてやるだけでも、かなりたすかるものである。

(三) 學校風の建物で硝子戸の多い室とか廊下では出来るならば南に向つて、一尺位の奥行の、張り出しを作り外にも硝子戸を入れたい、斯様な設備が出来るなら、極く寒い間だけは、夜中火鉢でも入れると、櫻草とかシネリアとかゼラウニムとか、又種々の球根草花類とか、極く普通の草花は、早くから花を咲かせる事が出来、大抵の温室物も、冬を越させる位は充分である。但し火鉢を入れたら上に必ず鍋をかけ、蓋はとつて水蒸氣を立てぬと植物がいたむ。

(四) 張り出し窓が出来ずとも、場合によつては、硝子戸入りの窓の内側に、室の方に向つて、奥行五六寸の、細い流しのやうな框が欲しい。

(三)、(四)の場合とも木製で内側に亜鉛板でも張つて腐らぬやうに、且つ排水の便を考へて置けばよい。此處に土を入れて植物を植ゑ込んでもよいし、鉢を列べてもよい。植物を育てる傍ら、同時に殺風景な冬中も、居ながらにして生き生きした植物を眺める事が出来る。是等は窓園と云つてよからう。

寒い間のかういふ苦心や、手入れを、幼い小供達に見せるなら、自分等と同じやうな弱い植物に對する同情心を養つたり、先生や両親の自分等に對する苦心の容易でないことを知らることが出来る、かやうな設備は幼稚園では一層無益でなからうと思ふ。尤も以上の設備はあまり寒くならぬうちかうして置くべき仕事であらう。



附記、此稿をおへてから考へ及んだのであるが幼稚園では商店の店先きにおいてある圖形の陳列箱のやうな持ち運びの出来る、硝子蓋のある

箱を作つてもよろしからう、仙人掌の防寒もよく作つて室内に於て眺める人もある。

正月飾りに用ひた 植木の後始末

序に正月の飾りに用ひた、室[○]咲[○]の梅[○]やら水[○]仙[○]やら福[○]壽[○]草[○]などは此月の終り頃になると、大部分花がすんでしまふ。是等花のあとの手當はどうすればよいかといふに、梅にしろ、水仙にしろ、花の次には、體を作り、來年の花を準備するに大切な葉や、枝を養はねばならぬといふ事に注意すればよい。それには花がすんだとて急に寒い場所に置き去りにしたり、水や肥料を忘れたりしてはならぬ。かやうにしては、梅は枝や葉になる大切な芽を枯らされてしまひ、水仙や福壽草は葉が早くから枯れて、翌年にはとてもよい花を咲かすやうな株になる事は出来ない。こんな事を辛棒強くする事の必要を幼児に示す機會となるであらう。